

令和6年度 社会福祉法人与謝郡福祉会 事業報告書

令和6年度は、当法人にとって、福祉の原点を再確認し、その運営の在り方を見つめ直す重要な一年となりました。事業計画に掲げた「生産性の向上」「組織体制の確立」「ブランド力の向上」という重点課題に取り組む中で、厳しさと成果の両方を実感した年でもありました。

財政面では、黒字化の達成には至らず、各施設の在宅サービスの稼働率の低迷や、長寿苑・岩滝あじさい苑の大規模修繕によるコスト増が影響を与えました。それでも、予算管理の徹底や、採算性を踏まえた定員見直しを実施し、経営改善に向けた確かな基盤を築いています。また、施設ごとに収益の改善策を講じ、経営基盤の強化に向けた準備が整いつつあります。

人材確保の課題も引き続き深刻であり、特に少子高齢化が影響する中、新たな人材の確保が困難な状況にあります。外国人介護人材を増員しつつ、職員のスキルアップを図るための研修を強化し、財務意識の向上にも力を入れました。ICTの活用や各種のテクノロジーの導入を進め、業務負担を軽減し、職員がより働きやすい環境づくりにも力を注ぎました。ノー残業ダイの拡充や意見が言いやすい職場づくりなど、職場環境の改善に力を注ぎました。

また、過去の不適切ケア事案を教訓に、再発防止策の徹底と倫理教育の強化を実施しました。利用者一人ひとりに寄り添った丁寧なケアを提供することを目指し、安全管理や感染症対策、虐待防止、ハラスメント対策に関しても引き続き徹底した対応を行っています。

地域との連携を強化し、地域行事への参加や施設見学の受け入れ、SNSを活用した情報発信など、地域住民との信頼関係を築く取り組みを進めました。これにより、地域から選ばれる施設としてのブランド価値をさらに高めるための努力を継続しています。

困難な状況下でも、職員一人ひとりの粘り強い努力と協力により、法人の支える力が、利用者一人ひとりへの質の高いケアの提供と、職員同士の支え合いを通じて確実に育まれています。これからも理念に基づいた運営と、より強固な経営基盤を築いていくため、不断の努力を続けてまいります。